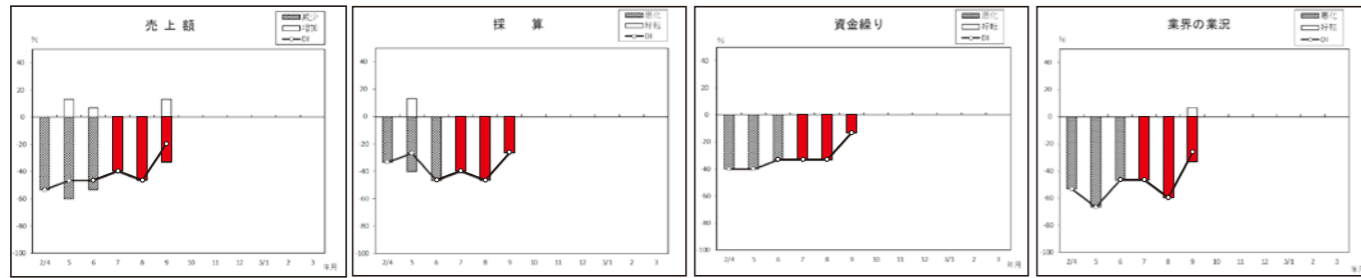


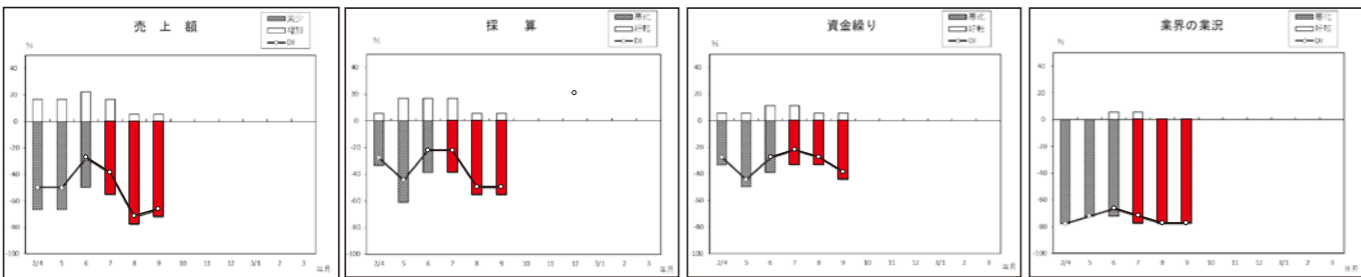
建設業 2期連続の改善を示すも、本格的な回復基調とまではいかない建設業

建設業は9月に入り全ての項目で僅かに改善した。前四半期との比較でも全ての項目で7～10p改善を示した。公共工事や災害復旧工事の発注が減少しているものの継続して需要があり、徐々に業況が回復しているが懸念材料も多く本格的な回復基調には至っていない。経営支援員からは、民間の住宅・設備関連では、コロナ関連の補助金施策でエアコンや換気扇等の取り付け工事が増え業況が好転しているとの報告があった。



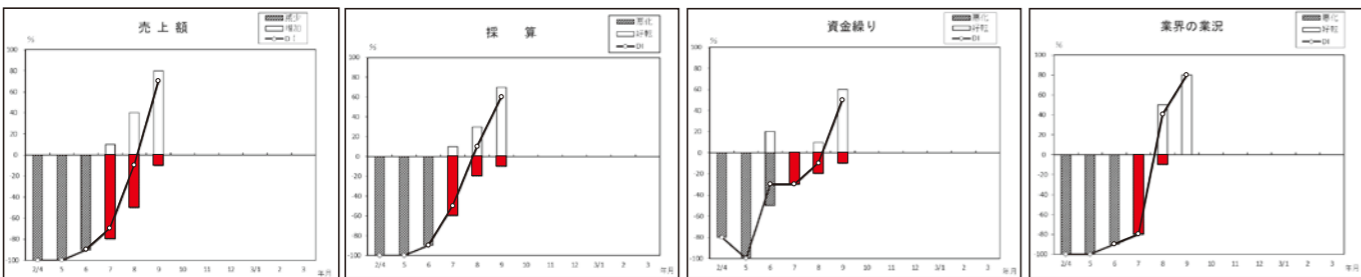
商業 一部の業種や商材は好調もいまだ低水準にとどまる商業

商業は9月に入り売上DIは6p改善、資金繰りDIは11p悪化、採算DIと業況DIは横ばいであった。前四半期との比較では、資金繰りDIは4p改善したが、売上DIは17p、採算DIは11p、業況DIは4p悪化した。経営支援員からは、景気刺激策の効果で一部の商材(ウイルス対策のための空気清浄機など)が好調であった一方で、購買意欲の低下や消費控えで厳しい状況が続いているとの声が多くあったとの報告があった。



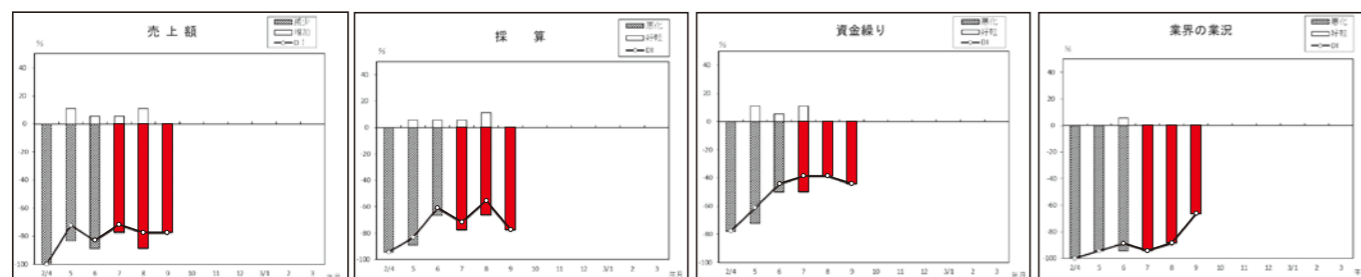
観光業 GoToTravelキャンペーンの効果で業況改善も先行き不安な観光業

観光業は9月に入り、売上DIは80p、採算DIは50p、資金繰りDIは60p、業況DIは40pと全ての項目で大きく改善を示した。前四半期との比較でも全ての項目において80p以上大きく改善した。宿泊応援割引やGoToTravelキャンペーンの効果が大きく表れ、宿泊客や予約が急増し一気に業況が改善した。経営支援員からは、GoToTravelキャンペーンの効果の裏で終了後が不安視される声も多く、人手不足も重なって先行きが不安との声が多く見られる報告があった。



サービス業(飲食店) コロナ感染状況により客足が大きく左右され、回復ペース鈍化するサービス業

サービス業は9月に入り、売上DIは横ばい、採算DIと資金繰りDIは18p悪化、業況DIは22p改善した。前四半期との比較では全ての項目で10p～20p改善を示した。経営支援員からは、京丹後市のクーポン券の効果で業況改善が見られるも、回復のペースは鈍化しており、感染状況により客足が大きく左右される状況が続いているとの報告が見られた。一方で、GoToEatキャンペーンに期待する声も多く見られた。



経営発達支援計画
令和2年度 伴走型小規模事業者支援推進事業

施策普及等に関する調査レポート 地域経済動向調査レポート

～京丹後市版～

(令和2年7月～令和2年9月)

京丹後市商工会

施策普及等に関するレポート - 施策活用普及調査(補助金/計画認定等) -

令和2年11月1日

<調査概要>

【調査目的】個社支援の一環として各種補助金や認定計画等といった施策活用の普及度合いを調査することで、事業者との関わり頻度を増やし、事業計画策定の重要性や施策活用提案など支援の依頼機会の創出を目的として実施するものです。

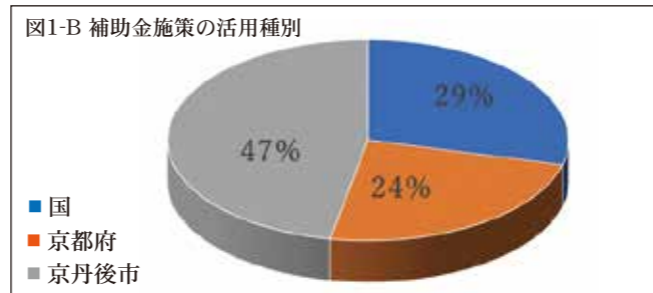
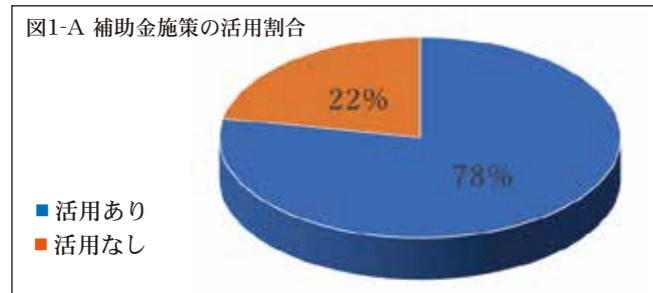
【調査対象】地域経済動向調査を実施している小規模事業者101件

【調査方法】当商工会経営支援員による巡回ヒアリングによる調査

■各種補助金施策について

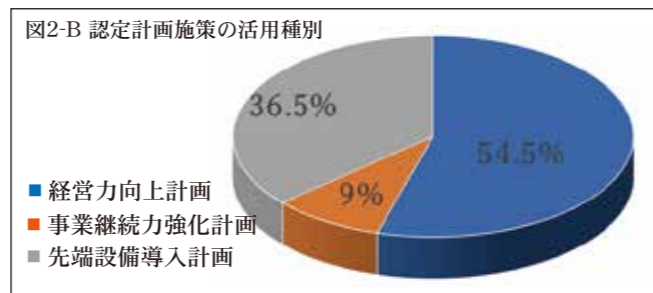
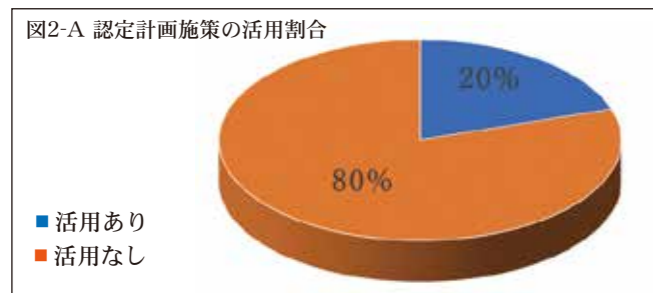
各種補助金施策については、「図1-A」のとおり、過去において約8割の事業所が何らかの補助金施策を活用したことがあると回答し、内訳(種別)については、「図1-B」のとおり、京丹後市の補助金施策が最も多く、半数近くを占めた。活用実績のある事業所は、補助率等で施策種別(実施機関)を選択している傾向が強いため、事業計画策定の重要性と共に実現性を担保していく伴走支援の果たす役割は最も重要と考える。

一方で、過去一度も活用したことがないと回答した事業所が約2割程度存在していることから、どのような理由で活用できていないのか、個社毎に精査する必要があるが、何れにしても積極的な活用と事業計画の策定促進を図っていき、当該事業者の経営の持続的発展と業界振興等に寄与していきたいと考える。



■認定計画施策について

認定計画施策については、補助金施策活用とは異なり、活用してない(認定計画を作成してない)事業所が「図2-A」のとおり8割を占め、作成意義やメリットの理解等が不十分であることに加え、活用促進が図れていないことが窺える。活用している認定計画は「経営力向上計画(国)」がもっとも多く半数以上を占めた。今後、積極的な活用機会の促進を図り、重要性の理解と共に作成支援に繋げていく必要がある。



地域経済動向調査レポート-京丹後市版-

~各種景気刺激策等の効果で僅かに改善傾向も業種によって回復度合に差が生じる市内の小規模企業~

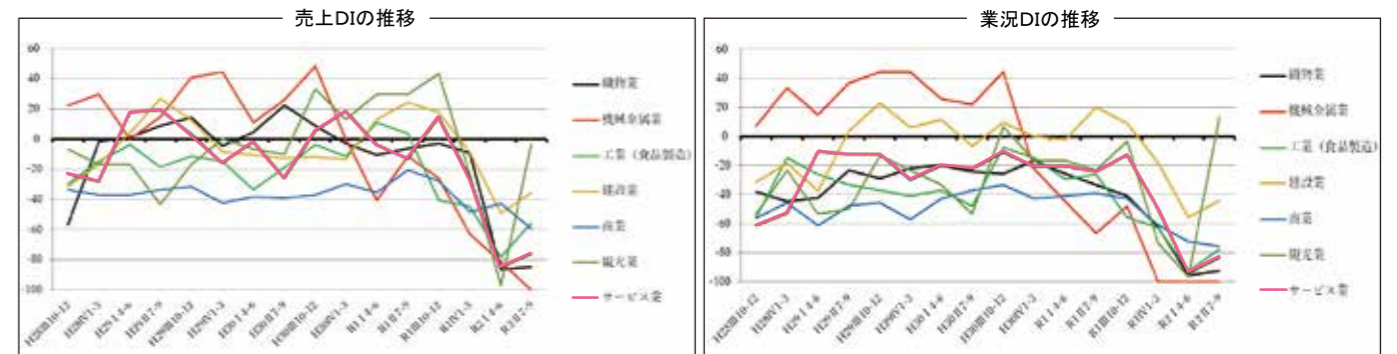
<調査概要>

【調査対象】地域内の小規模事業者等101件 【調査期間】2020年7月~9月

【調査方法】当商工会経営支援員による巡回ヒアリングによる調査票への選択記入式

<産業全体> 各種景気刺激策等の効果で僅かに改善傾向も業種によって回復度合に差が生じる市内の小規模企業

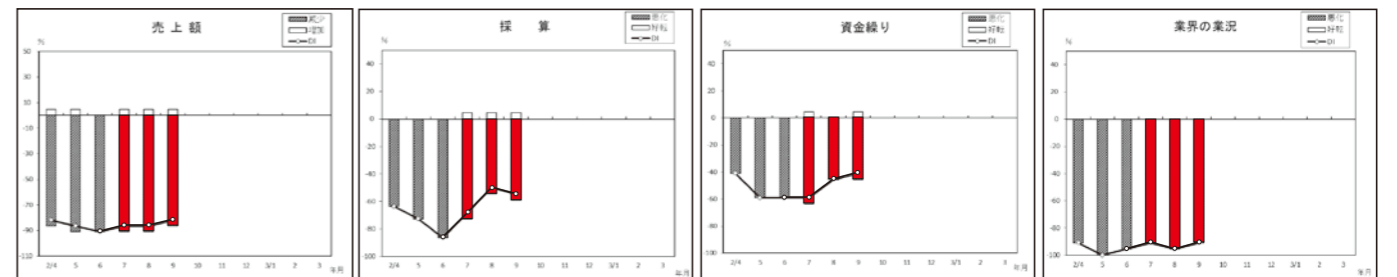
7月~9月の小規模事業者経済動向調査は、機械金属業及び商業以外の業種で僅かながら改善傾向を示した。夏の行楽シーズンを迎え、商品券の発行やGoToTravelキャンペーン等の効果もあり、特に観光業は大きな恩恵を受けて経済活動が回復基調にある。しかし、他の業種は例年の水準には程遠く、以前厳しい状況が続く回復度合に格差が生まれている。



※上記グラフは、過去の四半期毎の該当DIの平均値を算出しグラフ化したもの

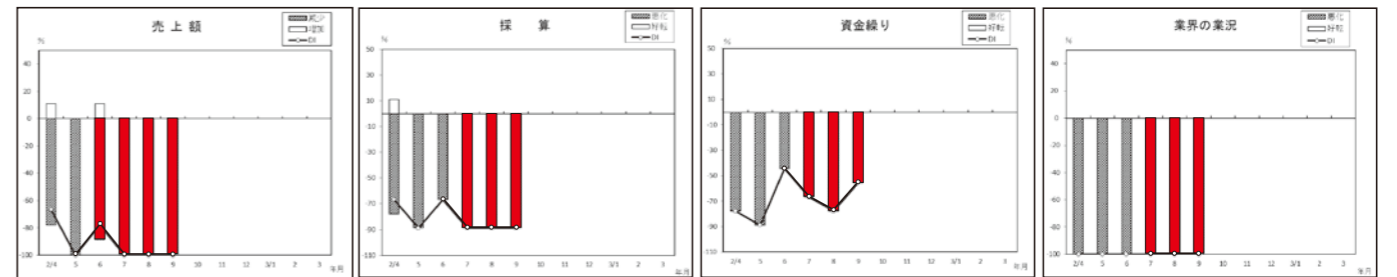
織物業 前期と比較して受注増するも例年の水準には程遠く、先行き不透明な織物業

織物業は3ヶ月間全ての項目でほぼ横ばいを示し、前四半期との比較では僅かに改善した。京都西陣からの発注減による生産調整が依然として続いているものの、催事等の出展再開など一部では復調傾向も見られ、全般的に4月、5月頃と比べ落ち着きを取り戻した感がある。経営支援員からは前期比較で受注増も例年の水準には程遠く厳しい状況が続いているとの報告があった。



機械金属業 依然生産調整が続く、回復への足取りが重く厳しい状況の機械金属業

機械金属業は3ヶ月間全ての項目でほぼ横ばいを示したが、前四半期との比較では、売上DIは19p、採算DIは15p悪化し、資金繰りは3p改善するも、業況DIは横ばいと2期連続全業種で最も低い水準となった。経営支援員からは、引き続き生産調整等の影響もあり、受注の回復には程遠い状況との報告がある一方で、減産をポイントに捉えリードタイムの効率化を図るなど前向きな動きもあるとの報告もあった。



工業(食品製造) 一部ネット販売好調の一方で、販売先の需要減退の影響を受け苦しい状況が続く工業

工業(食品製造)は9月に入り、売上・採算・業況DIが僅かに改善し、資金繰りDIは横ばいであった。前四半期との比較でも全ての項目で15~20p改善が見られた。経営支援員からは、巣ごもりによる消費拡大でネット販売増により売上は拡大傾向にあるが、原材料の原価高騰や販売先の飲食店等の需要減退の影響を大きく受けているとの報告があった。また、今後のGoTo関連施策に期待している声も多く見られた。

